

バクスのアライブ

つながる獣



R18
— FOR —
ADULT
ONLY



常に霧が立ちこめるザトールの地に
淫らな息使いが聞こえる

押し倒されたメリアの身体にヴォルフは
匂いを嗅ぎ、舐め回し、腰に前足を絡める

勃起した獣のイチモツが艶かしくそそり立つ

『やめる…何をするつもりだ…
私とお前では…子を成すことなど…』

そう言うもののヴォルフの性器に
目を奪われてしまったメリア
これから獣と一線を越えてしまうことに
興奮している。期待している自分がいる。

ヴォルフは、メリアの背中に押し掛かると
イキリ勃った性器をま〇こに擦り付けてくる。

『ああっ…入るっ…犬の…』

ヴォルフはメリアの秘部の割れ目にペニスの先を
添わせ、一息に滑り込ませた



ヴォルフの激しい腰つきが
メリアを墮とした

「あぁっ！ダメだっ……こんな……気持ち
良くなっ……は……♡」

人として、ハイエンターとしての尊厳が
獣のチ○ポひとつで崩れていく
身体が気持ちよさを求めて犬のペ○スを
啜えこんでいく

墮ちてしまった罪悪感と快感が
メリアの心を掻き奪る
ヴォルフがより強く身体を密着させる
ペ○スが脈打ち腰を震わせた

「……出てるっ
中で……精液が……」

ヴォルフのこっぴとりとした
塊のような精液がメリアの
膣内に注ぎ込まれる

その勢いは結合部からこぼれる

交尾は30分以上続き、その後も何度も交わった



オルガは性欲に飢えていた
メリアの清楚な女のニオイに興奮し、
一気に組み伏せる

「あぁっ！くっ！放せ！……うっ、なんて臭いだ」

マクナ原生林の暑さと
オルガの臭いに気を
失いそうになる

抵抗も虚しく
組み伏せられた
丸太のように太い
性器が股の間で
脈を打ちそびえ立つ

「そんなもの、入るわけないであろう！
やめてくれ、それだけは……！」

慈悲を請うも容赦無くオルガは
メリアの秘部へとデカマラをブチ込んだ



オルガの住処に連れてこられて
数日が経つ

メリアはすっかりオルガの孕み袋と
なっていた

朝から晩までオルガの気が済むまで
延々と犯され続けるのだ

のそりと別のオルガがやってきて
メリアの腰を掴む

もはや抵抗すらしめない
メリアはその身を差し出す

ガバガバになったマ○コだが
オルガのイチモツにとっては
まだまだ締まりの良い肉壺である

「ふあっ!?!」

そのベ○スはこの群れの中で
一番で大きいモノだった

「ふぐあっ!?!...
はあはあ、あっ!おおおおっ!?!」

何度も犯されているのに
このベ○スにだけは
いつも処女のような
よがり喘いでしまう

大きさだけでなく亀頭の傘の広さ、
竿の反り返り、血管のゴツゴツまでも
メリアを気持ちよくしてくれるのだ

トキ♡
トキ♡

トキ♡

たぷ♡

ぐっ...

トキ♡
トキ♡
トキ♡

了了

はぁ

るん♡

蒸し暑いマクナ原生林の奥深くから盛りのついた猫のような声が響く。発情期のフェリスがメリアを組み伏せる。極太で棘のついたベ○スがメリアの膣に深く突き入れた。

「ああん！あつ！キツい…っ！あう！性器のトゲが…ひうん！」

挿入まではその太さに身を悶えさせた。しかし猫科にある生殖器の「トゲ」が引き抜くと膣壁に刺さり刺激する。「痛ッ！あぁッ！それ以上、動くな！んっ…くぁあぁッ！」

フェリスが腰を動かすたびにトゲが刺さる。

「ひぎい…あが…っ！」

巨大なベ○スはメリアの子宮口を捉え一気にねじ込む。子宮をこじ開け深々と挿入ってしまった。

ズン

ドク

ズン

ズン



一匹のテレシアがメリアを襲う
メリアは接近戦には向かない
ロッドで距離を取るも、強靭なテレシアの攻撃に弾かれる
あつという間に組み伏せられてしまった

「マズい このままでは…ッ！」

一撃が来る
そう覚悟したメリアは反射的に身を強張らせ目を瞑る

時が止まったかのような静寂
テレシアはジッとメリアを見つめていた

「…まさか お前は私のことがわかるのか？」

彼は、このテレシアは、もしかしてアカモートの住人
だったのではないか？そう直感で気づいた
テレシアは悲しんでいるような鳴き声を発する

「驚いた。テレシアとなっても、まだ人としての意識はあるのだな！？」

苦しみ出すテレシアはまるで
人と化け物の狭間を彷徨っているようだ

「苦しいのか！？」
私は…一体どうすればいいのだ…？」

するとテレシアは呻きだし下半身から生殖器を伸ばす

「…これは まさか、私と…したいのか？」

自体を把握したメリアは頬を赤く染め
困惑した表情を浮かべる
しかし、苦しむテレシアを見ると
彼をなだめるにはそれしか
方法が無さそうだった

トア

トア

「…わかった お前の苦しみを…受け入れよう」

メリアは下着を下ろし、彼のものを受け入れる体制になった

ドクン

ドクン



人であった頃とは違い変化したテレシアの性器は歪な色と形、臭いを放っていた

「こ、これが私の中に…」

今まで獣と交わりはあったが同じ種族だった異性と交わるのは初めてであったハイエンター同士とはいえテレシア化による違いに戸惑い、臆するしかし苦しみ同胞のために出来るならと、意を決する

「んっ……くうっ……あ……ああ……っ……」

メリアはゆっくりと先端を受け入れるしかし、テレシアは自我を保てずに本能のままに突き立てた

「うああッ！待てっ！イキナリでは私の心の準備が……ああっ……」

テレシアは己の苦しみを紛らわせるように必死にメリアを抱いた

「ああん！あっあっ……ッ！はあっ！お願いだ、もっとゆっ……くあっ！」

テレシアはメリアが痛がっている事がわかったのか落ち着きながら腰を動かす

「やはりお前は私の言葉がわかるのだな？気を遣ってくれたのかすまない。お前のしたいようにさせてやりたかったのだが……」

メリアは脚をテレシアの腰に絡めた生殖器がより深く挿れ込まれる

「んあっ！あっ……はあはあ
あはっ♡これで思う存分♡
私を好きにするが良い♡」

はっ♡
あっ♡

メリアはそう言って自らも腰を動かすそれからふたりは止まらなかつたひたすらに腰を振り身体を重ね、求めた何度も達し、射精し、その度に受け入れた

メリアは下腹部に注がれる精液の暖かさを感じるよううっとりささずる

「もしも、希望があるならば、お前の子を授かるかもしれないな……♡」

あ
ん
ん

あ
ん
ん

あ
ん
ん

あ
ん
ん
♡

「やめてっ！ はなしてっ！」

それは突然の出来事だった
背後から腕を捕まれ、押し倒された

「お前が悪いんだぞ こんな…エロい身体
しやがって…もう我慢できんッ！」

男は片手にもかかわらさずフィオルンの両腕を固定する
力が強く振り解くことが出来ない

「ほらあどうだあ？ 気持ちいいかあ？！ はあはあ！」

ムードもセンスもまったたく無い
ただ暴力的な愛撫は不快極まりなかった
ずっとシチュルクだけを想ってたはずが
こんな男に身体を弄ばれている

必死に逃げ出そうとするものの
強引に引き戻されてしまう
最早、逃げられない

「ひっ！」

フィオルンの秘部に男の指が触れる
息が詰まると同時に高い悲鳴が出た

「いやあ…！ それ以上はダメ！ お願いだから…ッ」

男の指はねっとり円を描き穴を広げようとする



「いやあーこのー放してッー」

地中に隠れていた機神兵へ七八式・柔の奇襲に
ファイオルンは致命傷を受けた
機械の身体の不調で思うように動けなかったせいもあり
あっという間に触手で拘束されてしまった

キーン

キーン

触手はギリギリとファイオルンの身体に絡みつき引き千切るうとする
機械化したファイオルンの身体は細身だが頑丈だ

「まだ、耐えられる……ッ！
負けないんだからっ！」

キーン

必死の抵抗を続けるファイオルンを見ていた一本の触手が
戦闘モードに移行した

ファイオルンの身体の弱そうな部分を見定めている
全身を舐め回すようにゆっくりと調べ上げ
ついに急所を導き出す

キーン











トキトキ♡

トキトキ♡

たろ...♡

ム...♡

ズキ

ズキ



カッ
カッ
カッ

カッ

カッ
カッ
カッ

カッ

カッ

カッ
カッ
カッ

カッ
カッ
カッ
カッ

カッ
カッ
カッ
カッ

カッ
カッ
カッ
カッ
カッ
カッ
カッ
カッ

カッ
カッ
カッ
カッ
カッ
カッ
カッ
カッ

カッ
カッ
カッ
カッ
カッ
カッ
カッ
カッ



カッ
カッ
カッ

カッ
カッ
カッ
カッ
カッ

カッ
カッ
カッ

カッ
カッ
カッ

カッ
カッ
カッ

カッ
カッ

カッ
カッ
カッ
カッ

カッ
カッ



ko
%

ko
%

ko
%

ko
%

RRR

↓

↑

↑

↑

↑

↑



ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト

ト









あとがき

どうも てんぜんみやびです！
本家ゼノブレイドが10年越しにリメイクされ
それに習いペけえのブレイドもリメイクしました！

本家のゼノブレイドは初のオープンワールドだったり
容量の問題もあるだろうと察しはするけどキャラの
グラフィックが厳しいと感じましたがこのゲームは
そこじゃないんだと言わんばかりにストーリーや
バトル、BGMなど魅力がたっぷりでした

で、それからシリーズがクロスや2が出て
グラフィック面でもクオリティが高くなってきた今、
まさに Definitive Edition、決定版と言うに相応しい
作品になったと思います！！

また次も新作が出るのを楽しみにしています
wii や wii U とずっとハードが変わってもソフトが
ゼノブレしか買ってなかったのですが Switch は
やりたいゲームいっぱいあってハードの有効活用
してるなあって思います

それではまた次回作で！ 天漸雅でした！

おくづけ

発行日：2020年10月18日

著者：天漸雅

サークル：漸速ライダー

Twitter：@tenzenmiyabi

ブログ：漸速力2 <http://b.dlsite.net/RG10200/>

連絡、問い合わせは上記ブログからどうぞ。

印刷ねこのしっぽ様

※18歳未満の購読を禁止しています。無断転載、複製禁止。
この作品はフィクションです。実在の人物、団体、事件
などにはいっさい関係ありません。
本書を読んで生じたいかなる損害に対しても一切責任を負いません



ソード・オブ・ザ・スピリット
つながる獣

ハルエのアライブ
つながる獣